

2019年4－6月期 転職時の賃金変動状況

「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者数の割合」は29.0%
前年同期比1.1ポイント低下

株式会社リクルートキャリア（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小林 大三）が提供する転職支援サービス『リクルートエージェント』における2019年4－6月期の「転職時の賃金変動状況」を報告します。
「転職時の賃金変動状況」では、“転職決定者の賃金は転職前後でどのように変化しているのか”という点に着目し、「前職と比べ賃金が明確に（1割以上）増加した転職決定者数の割合」の経年変化を観察していきます。

【算出式】

$$\frac{\text{「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者数」}}{\text{「転職決定者数合計」}} \times 100 \text{（単位：％）}$$

※ 前職（転職前）の賃金は時間外労働等の「変動する割増賃金」を含む一方、転職後の賃金にはそれらが含まれないため「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は実態よりも低めの値となる傾向があります。

■ 全体

- 4－6月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は29.0%。
 - － 2013年度以降、上昇基調が続いていたが、2019年4－6期は前年同期比1.1ポイント低下。

【年度推移】



【四半期推移】



【本件に関するお問い合わせ先】

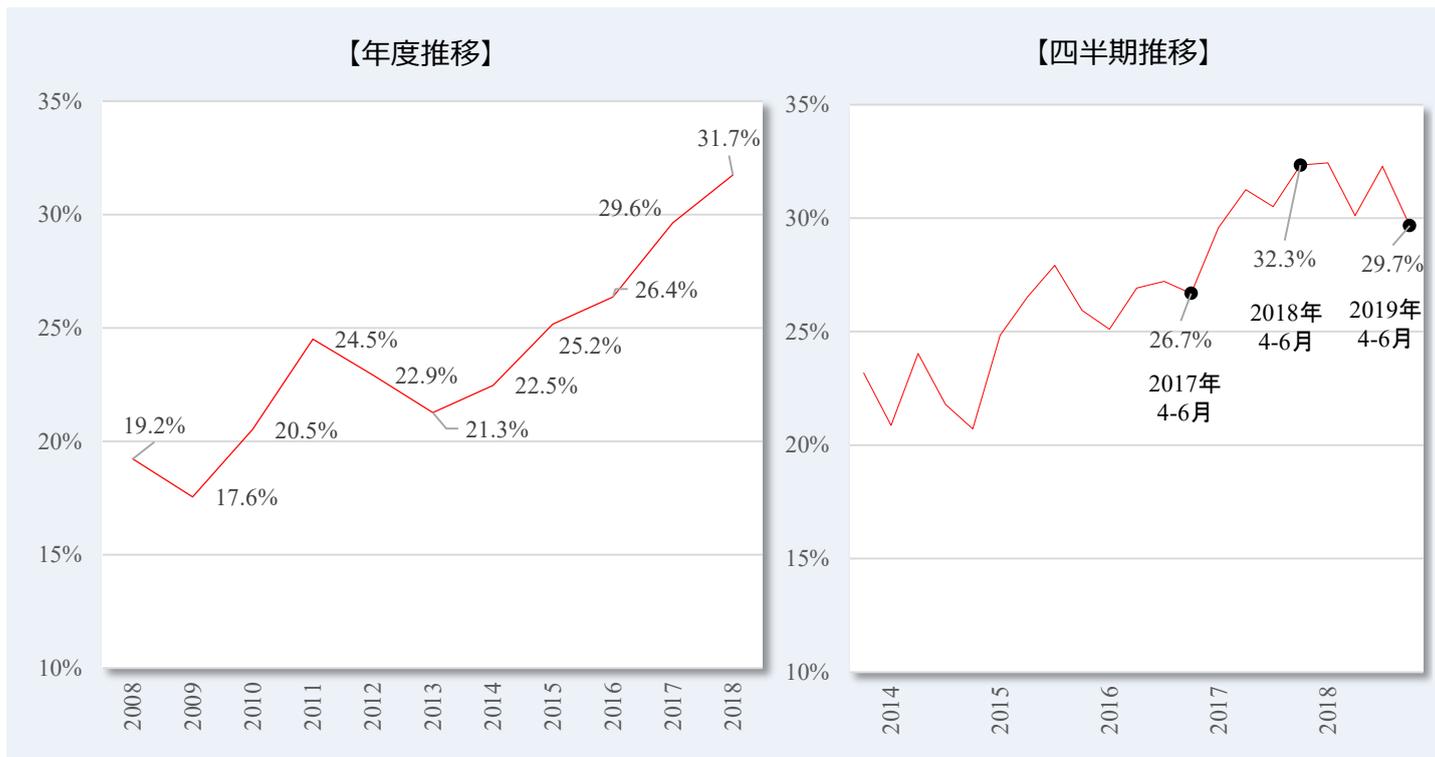
株式会社リクルートキャリア 広報部 社外広報グループ
TEL: 03-3211-7117 Mail: kouho@waku-2.com

リクルートキャリアではこれからもひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指していきます。

■ 職種別

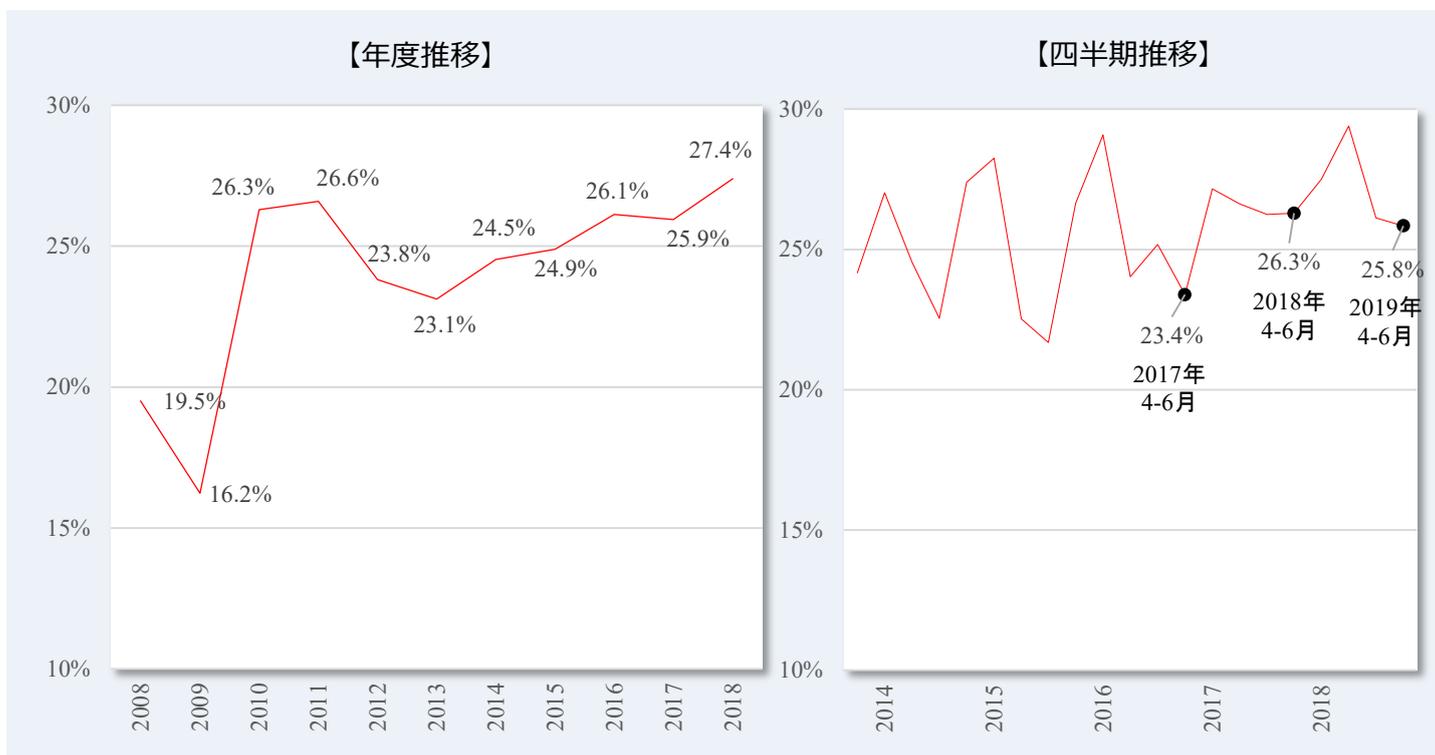
● IT系エンジニア：4-6月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は29.7%。

－ 2014年以降上昇基調が続いていたが、2019年4-6月期は前年同期比2.6ポイント低下。



● 機械・電気・化学エンジニア：4-6月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は25.8%。

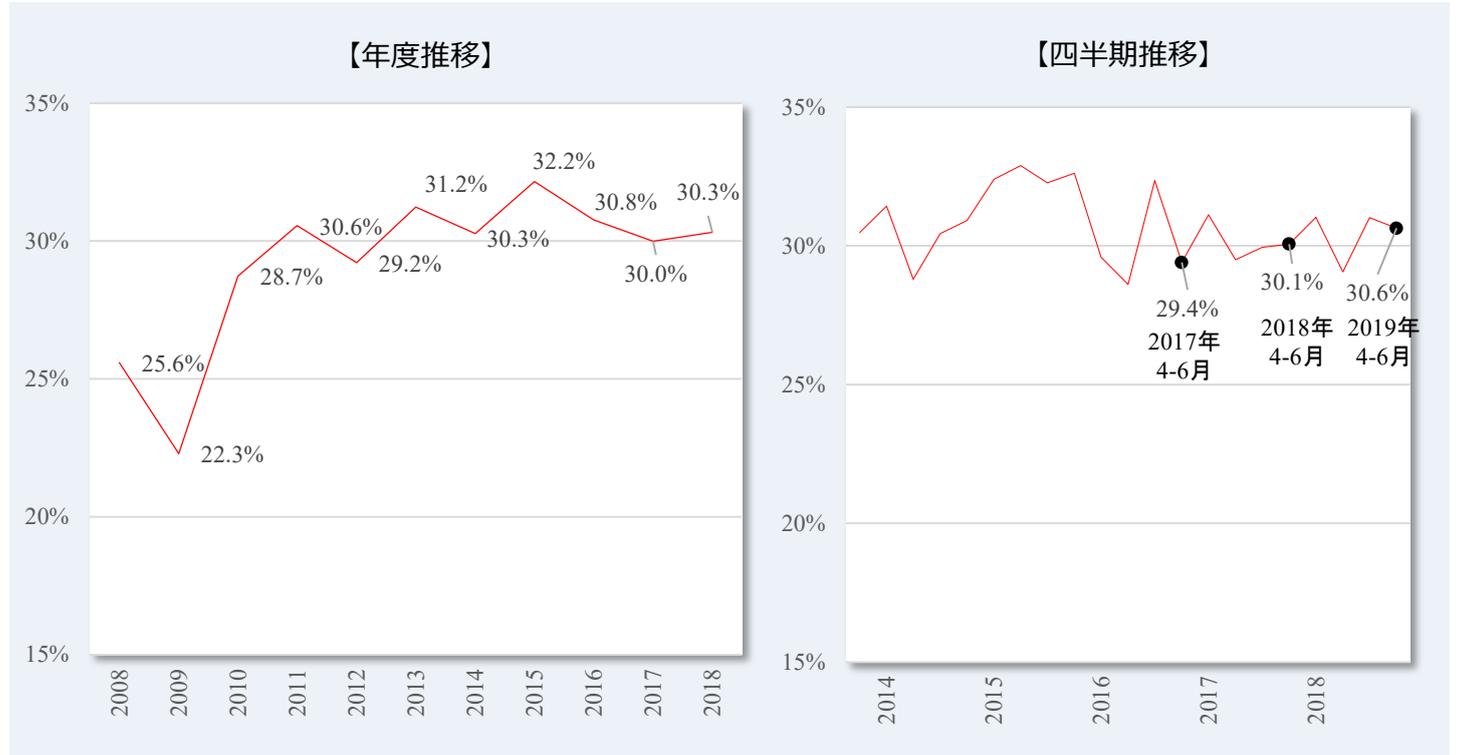
－ 2017年頃より上昇基調に復していたが、2019年4-6月期は前年同期比0.5ポイント低下。



■ 職種別

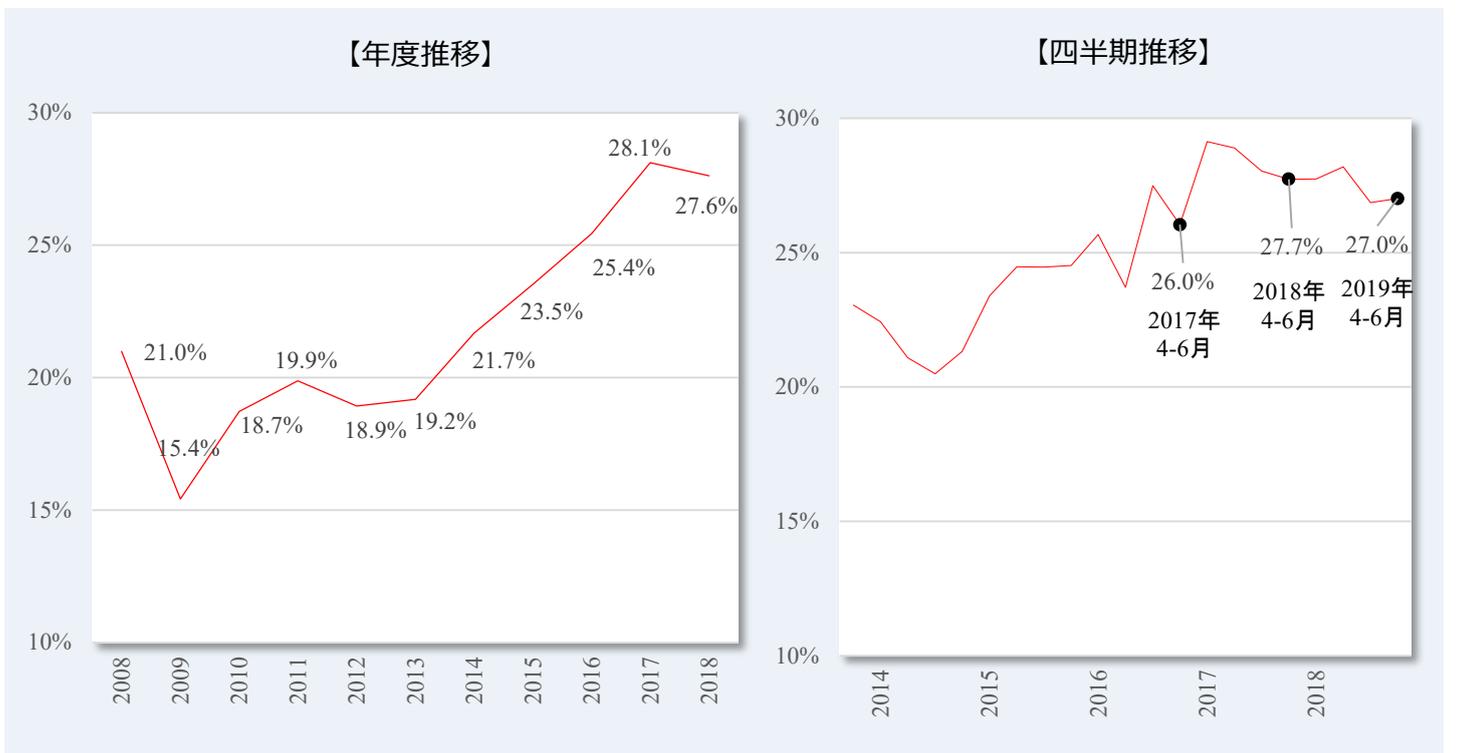
● 営業職：4-6月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は30.6%。

- 2019年4-6月期は前年同期比0.5ポイント上昇。
- 幾分水準が切り下がった2016年度以降、振れを伴いつつも、概ね横這い圏内の動きが続いている。



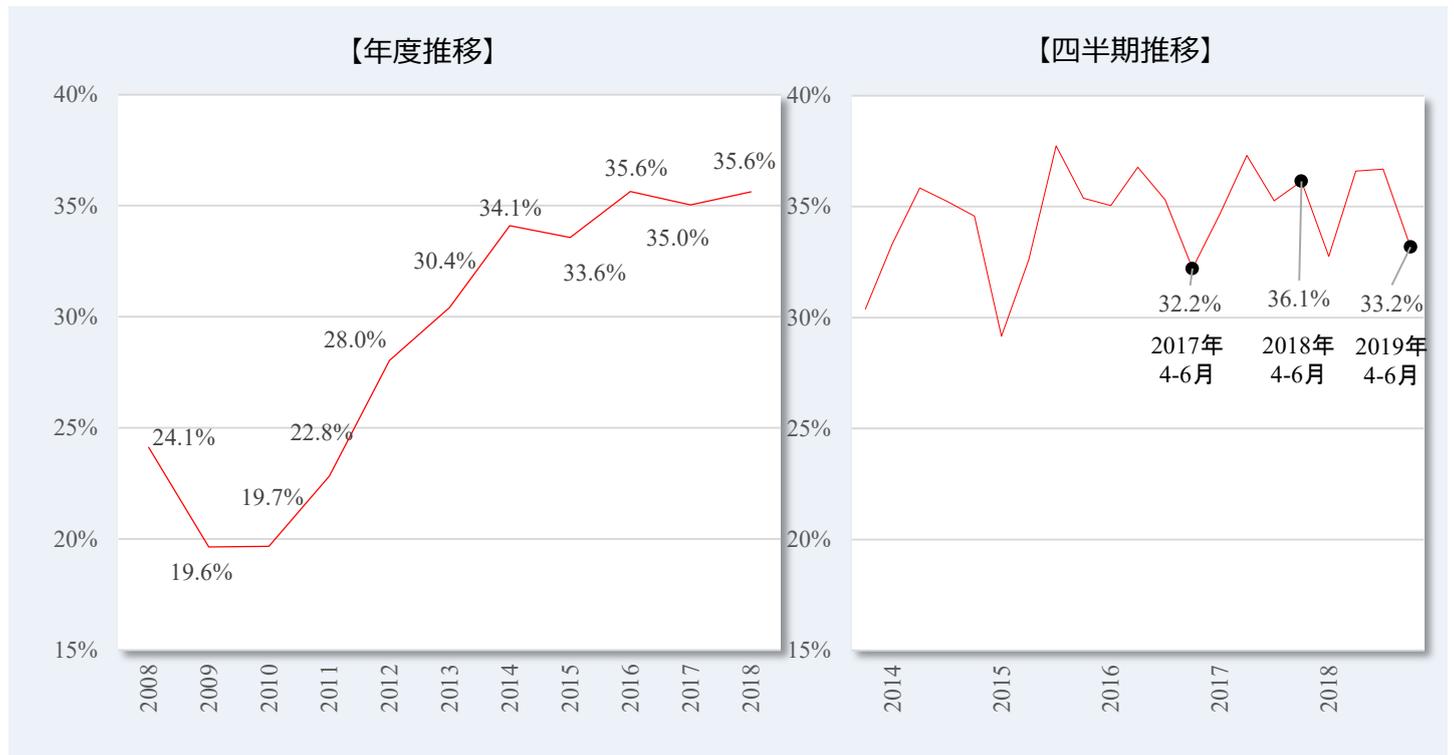
● 事務系専門職：4-6月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は27.0%。

- 2017年度以降、弱めの動きが続いており、2019年4-6月期も前年同期比0.7ポイント低下。



■ 職種別

- **接客・販売・店長・コルセナー：4-6月期の「前職と比べ賃金が1割以上増加した転職決定者の割合」は33.2%。**
 - 2019年4-6月期は前年同期比2.9ポイント低下。
 - 2015年度以降、振れを伴いつつも概ね横這い圏内での推移が続いていたなか、足許は幾分弱めの動きとなった格好。



免責事項：

掲載されている数値は、転職支援サービス「リクルートエージェント」のデータをもとに、リクルートキャリアが独自に算出したものです。情報の内容の正確性については万全を期しておりますが、その時点での提供可能な情報であり、その正確性を保証いたしかねますこと、あらかじめご了承ください。またシステムにおける障害の発生、システムのメンテナンス等のため、情報提供を一時的に停止する場合があります。